【Orlanth the Famer】

説明

解説

神殿

嵐の神殿。小神。

称号、職能

オーランスは土地を開墾したこと称えられ“農夫”と呼ばれた。“農夫”オーランスの意。オーランスの別名の一つ。

概略

オーランスはアーナルダと結婚するに当たって、自分が立派な男であることをいくつかの点で証明して見せた。その1つとして、オーランスはインキンを苛めるウロックスを縄と棒だけで打ち据え捕らえ鋤をつなぎ、森や岩だらけの大地を耕して種を植えた。

つまり彼はアーナルダとその眷属、自分の仲間たちを養えることを示したのである。人々はこの行いを褒め称え、オーランスにオーランスカルル、つまり“農夫”オーランスという名を与えた。

オーランスのカルトとしてはオーランスの古い姿を崇めるカルトで、多くは若い神々にその職能を譲っており、これが崇められることは稀である。

組織

相、カルト

すべての父オーランスの下位カルト。

別名

- ・ オーランスカルル
- ・ “農夫”オーランス

参考文献

- ・ 『Thunder Rebel』 p.235、216-217